

ひの市民活動団体連絡会ニュース15号

平成21(2009)年8月15日
発行：ひの市民活動団体連絡会
会長 梁瀬 悦司

編集：広報部会

〒191-0012 東京都日野市日野 1369-27

Tel / FAX. 0 4 2 - 5 8 1 - 6 1 4 4

E-mail:hino-cagcm@tokyo.email.ne.jp

URL://hinokaturen.sakurane.jp/index.htm.

ひの市民活動団体連絡会第7回NPOフォーラム「企画提案ワークショップ」で

協働の仕組みを話し合う



平成21年6月21日（日）午後1時30分から4時30分まで、ひの市民活動支援センター2階会議室で、「第7回NPOフォーラム」がひの市民活動団体連絡会と日野市企画部地域協働課の共催で行なわれ、行政から荻原企画部長をはじめ17名、NPOから21名が参加しました。

「市民活動団体〔NPO〕と市との協働のための指針」を踏まえ日野市の事業について、市民活動団体と行政が協働できる企画はどのようなものがあるのかを探り、行政と市民活動団体との協働を推進し、いかにいいまちを創るかに役立てようと、「日野いいプラン2010ステップアップ」報告の最重点施策「I.参画と協働のまちづくり」から「X.個性と魅力と活気あるまちづくり」までの10テーマについて、全体でワークショップを開きました。その内容を整理し、提案としてまとめました。

◎いいまちをつくろうと考え、企画の充実を図れるように仕組みを作る提案

子育てや団塊世代が活動できる企画が生きる。例えば子育て中の親や子どもを考える社会の実現、映像やIT技術の活用、職員同士のヨコのつながりなど、行政と市民活動団体に共通している仕組みが多く出されました。

◎行政とNPOとの協働の企画を考える

I. 参画と協働のまちづくり

- ・不況でもゆるがない仕組みを考える
- ・ヨコつながりの情報を共有できる仕組み
- ・市民参加を担保する自治基本条例の策定

これらには、市民も行政もスキルアップの仕組みや、地元関係者協議会と一般市民の会議の二本立てを確保、当事者の意見を取り入れる仕組みなど、市民同土育ちあう場づくりの仕組みなどが提案されました。

II. 日野人・日野文化を育てるまちづくり

- ・つなげる視点を確保する仕組みを作る
- ・市民活動ファンドを作る
- ・川の駅構想を推進する

III. ふれあいのあるまちづくり

- ・遊びとはを考え提案していく仕組みを作る
- ・学校に森をつくるという運動を広げる

IV. 対等の立場で心のかようまちづくり

- ・仲間づくりができる仕組みを作る
- ・親自身の育ちを支援する仕組みを作る

V. だれもが健やかにいられるまちづくり

- ・食育の充実を図る仕組みを作る
- ・農業の充実を図る仕組みを作る

VI. 住みやすいまちづくり

- ・景観を良くしていく仕組みを作る
- ・住みやすい日野を作る仕組みを作る

VII. 気軽に出かけられるまちづくり

- ・交通システムを良くしていく仕組み

VIII. 自然と人が共生するまちづくり

- ・環境教育・自然体験活動の充実を図る仕組み
- ・CO₂削減の取り組みを全市で対応する

IX. 安全で安心なまちづくり

- ・地域の安全を図る仕組みを作る

X. 個性と魅力と活気あるまちづくり

- ・日野産の農業の充実を図る仕組みを作る
- ・農の体験ができる継続支援の仕組み
- ・日野市のカラー充実を図る仕組みを作る

例年8月の「情報交換会」の前に、市民活動団体、行政それぞれの情報発信・情報共有の必要性を新たにしました。行政、NPO共に情報を集めることの大切さを実感し、これらの仕組みをつくる企画が生み出せるのではないかと思います。（梁瀬悦司）

6月は日野市子ども部米田裕治部長を、7月は日野市健康福祉部大坪冬彦部長を講師にお招きし市民活動支援センターにて“金曜サロン”を開催しました。共に約10名の参加者で、行政と市民活動が協働して取り組む課題について考えました。

《 6/19 子ども部米田部長と共に 》

“子育て環境ナンバーワン”をめざして、主に子ども部が今新たに取り組んでいる（基幹型児童館、そだちあい事業など）について説明されました。その中で保育園や学童クラブの質の向上のひとつとして取り組んでいる「そだちあい事業」では、現場同士の話を心がけているとのこと。そして、①正解を求めない②本音で話す③論争をしない④対等にコミットする⑤変化を確かめ合うなどが成果につながってきていると紹介されました。



最後に「親には親として流さなければいけない汗がある。そして行政も流さなくてはならない汗があると思う」と話されました。

(子どもへのまなざし 中川)

★市民活動団体として未来を担う子どもたちのために行政と共に汗を流していきたいと決意を新たにしました。(参加者の声より)

《 7/17 健康福祉部大坪部長と共に 》

具体的な資料により、少子高齢化、格差社会、分野別福祉の縦割りの現状などについて説明され、将来に向けて、行政の縦割組織の枠を超えた総合的・包括的な取組みと、市民団体・行政の協働による新たな福祉の在り方の模索が必要である。

今後、すでに市内各地で取組みが始まったサロン活動、介護ボランティアなど市民参加の芽生えに期待する。一方、老人クラブやシルバー人材センターへの登録者数が伸び悩んでいる。これからはシニア世代自身にも課題克服への参画と健康維持への積極的取組みを促す工夫が必要だと結ばれた。(福祉カフェテリア 湯口)

★「質の高い仕事ができる“行政パートナーを育てる”という意識が行政側に求められている」という発言がとても印象に残りました。(参加者の声より)



＜連絡会の部会報告＞

ひの市民活動団体連絡会は3部会から構成され、各団体はいずれかの部会に所属しています。各部会の4月から7月までの活動(計画を含む)は以下のとおりです。

・**事業部会** NPOフォーラム開催企画(6/21)、日野・多摩・稲城市民活動支援組織交流会開催予定(8/23)、金曜サロン開催(第3金曜日)、パネルデジタル化、パネル展示(市役所ロビーで年3回)、NPOカルテの作成、研修会等への派遣。

・**運営部会** ひの市民活動支援センター一斉清掃活動(5/24)、ねんも公園一斉除草活動(6/14)、

イベントに模擬店として参加<アートフェスティバル>(8/22, 23)、展示参加で<ひのくらしのフェスティバル>(11/1)、<ひの活動支援センターまつり>(12/6)、共催事業の推進(フリーマーケット、パソコン講習会など)。

・**広報部会** 連絡会ニュース15号作成編集計画と発送、イベントニュース、ホームページ、ブログについての検討。

ふるさと納税制度プロジェクトチームが活動を始めています

連絡会ニュース第12号で、横浜市の「よこはま夢ファンド」を紹介しました。ふるさと納税制度を活用して市民からの寄付を募り、これによってNPO団体を資金面から支援する仕組みです。

ふるさと納税制度は元来大都市圏と地方との地域格差を是正するため自分の育った地域を応援する仕組みとして発案されました。しかし実際には現に自分の住んでいる地域の事業を市民に応援してもらう形での寄付募集が各地で功を奏しています。

ひの市民活動団体連絡会では、プロジェクトチーム（PT）を作ってこの制度について研究することとなりました。

現在5団体のメンバーがPTに参加して勉強会を開き、6月から先進的自治体の状況を調査しています。日野市でふるさと納税制度を積極的に進めるとすればどのような制度にしてゆくのがよいか、それを行政と連携して研究するべく、行政・市民団体の協働事業として提案する予定です。

日野市の事業の中には行政の支援を得ながら市民が中心となって進めることが望ましい地域活動がいろいろある。そのような事業には市民の寄付を活用するのがよいのではないかとPTメンバーの議論ではそのようは事も話されています。

ふるさと納税と税金減額の仕組み

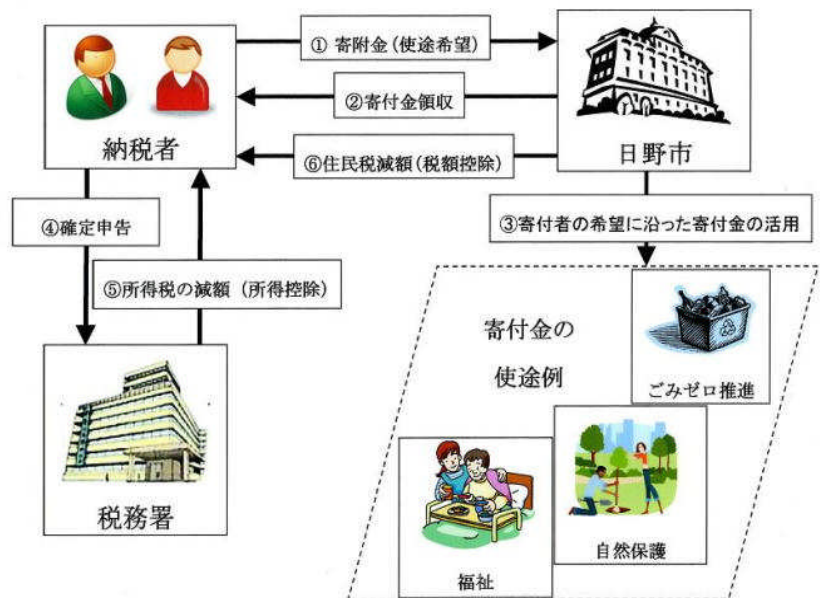
ふるさと納税制度では納税者が自治体に寄付をした場合、所得税と住民税が減額されます。寄付から税金減額までの流れを日野市の場合について図で示しました。（ただし、現段階では日野市では寄附金の使途を希望する仕組みはありません。）

日野市のホームページには税金の減額について下図のモデルケースを示しています。

日野市の示す税制上の優遇例

年収700万円 夫婦子ども2人の納税者が40,000円の寄附をした場合、所得税と住民税を合わせて35,000円の税金が減額され、結果として寄付者の負担は5,000円となります。

（ふるさと納税制度プロジェクトチーム 湯口裕）



現段階では、日野市では寄附金の使途を希望するしくみはありません。

フリーマーケットを開きました！ ～楽しくリサイクルしましょう～

6月28日(日)ひの市民活動支援センターの駐車場で開催しました。(主催：NPO法人日野子ども劇場 共催：ひの市民活動団体連絡会)

市民や市民活動団体(NPO法人共働事業所「あいあむ」、NPO法人日野子ども劇場)の5ブースが出店しました。家庭に眠っている衣類、食器、雑貨や手作りの手芸品、工芸品などの品物や川辺堀之内の新鮮な野菜(トマト、なす、ピーマン、じゃがいも、紫たまねぎ、インゲンなど)の販売もありました。

親子で出店したブースでは、子どもたちがお客さ

んと楽しそうにやりとりしている姿も見受けられました。品物の売り買いだけでなく、ときには、出品の野球ボールひとつから話が弾み暮らしの情報交換というような出会いがあるのもおもしろいです。

今回は、近隣の方からリサイクル品の寄付があったり、野菜の販売を楽しみにしているという声もあつたりしました。少しずつ地域の住民の中にも浸透してきているようです。

リサイクルの広がりや市民の交流はもちろんのこと、ひの市民活動支援センターを知ってもらうためにも、少しでもたくさんの人に参加してほしいと思います。人が集まるような工夫も必要だと考えています。(NPO法人日野子ども劇場 本田眞弓)

市民活動団体と市との情報交換会を今年も開催します

ひの市民活動団体連絡会と日野市とでは、ともに参画と協働によるまちづくりを推進しています。この取り組みの一環として、「市民活動団体と市との情報交換会」を今年も開催します。

主な目的は、新たな協働事業の模索をすることですが、継続事業をより充実させることにも活用されています。

～ ～ ～

平成16年度から始めて、今年度で6年目になり

ます。当初は市民活動団体からの事業提案のみでしたが、平成19年度からは市民活動団体と市の部署との双方から提案いただいています。昨年度は、市民活動団体から11件、市の部署からは4件の事業提案がありました。

～ ～ ～

今年度は7月に提案事業を募集しており、開催は8月下旬から9月頃を予定しています。これまで市の主要事業について、5月の勉強会や6月のNPOフォーラムを通して市民活動団体と市とで意見交換などして理解を深めてきました。これを生かして、市民活動団体の皆さんには、行政にはできない柔軟で独創的・先駆的な事業提案を期待しています。

どうぞよろしく申し上げます。

◆◆事務局だより◆◆

※会員が法人認証を取得しました

市民活動団体「子どもへのまなざし」は6月に特定非営利法人として認証されました。

7月1日現在、ひの市民活動団体連絡会で会員のNPO法人は20法人となりました。

※ラベルライター「テプラ」の導入

7月13日、ラベルライター「TEPRA PRO」SR530を導入しました。

使用は無料ですが、テープは自己負担となります。

持ち出し使用も可能です。事務局に備えてある、「備品持ち出し使用書」に記入し、ファイリングをお願いします。

※支援センターの防犯のためにも、さらなる自主管

理の徹底をお願いします！

支援センターの使用にあたっては、自主管理でお願いしておりますが、3ヶ月に一度位の頻度でカギのかけ忘れ、エアコンの切り忘れなどが見受けられます。

防犯の上から、また、経費節約の上からも見逃ごせないことなので、お帰りにはもう一度戸締まり・電気・ガス・水道の確認をお願いいたします。

※ねんも公園の除草

年2回実施する除草は毎月の清掃と違い、全会員に参加して頂く事になっています。

一回目は6月14日13団体26人の参加で作業を終了しました。お疲れ様でした。

第二回目は9月27日（日）の9時から行う予定です。（小雨決行）

参加団体の皆さん、少しの時間、一緒に汗を流しませんか。（事務局・山本、山崎）

ひのアートフェスティバル

8/22(土)10:00～20:30 , 23(日)10:00～18:30 自然体験広場(仲田小となり)

野外コンサート、アート作品展示、手づくり広場、フリーマーケットなど盛りだくさんの楽しいイベント。連絡会では模擬店として参加します。(フランクフルト、ホットドック、アイスクリーム)スタッフ募集中!!

編集後記 初めて編集作業に参加した「連絡会ニュース15号」をお届けします。記事集めや編集作業は大変ですね。さて、梅雨明けの先日、半そで姿で外出したのですが、日差しが強く腕がちりちりするようでした。しばらくすると、腕が真っ赤に日焼けしてしまいました。長袖を着てくれば良かったと反省しました。皆様も日中の外出は、ご注意ください。（日野団塊世代広場・川股）